

日本学術会議  
情報学委員会 国際サイエンスデータ分科会 CODATA 小委員会  
(第 25 期 第 1 回会合)  
議事要旨

日時： 2021 年 5 月 7 日 13:00-15:00

場所： オンライン開催

- 議題： 1. 設置趣旨説明(資料 2)  
2. 委員自己紹介(資料 3)  
3. 委員長互選、副委員長・幹事指名  
4. CODATA 次期役員推薦について(資料 4)  
5. CODATA National Committee の活動に関わる議論(資料 5)  
6. その他

- 資料： 1. 議事次第  
2. CODATA 小委員会設置提案書  
3. CODATA 小委員会名簿  
4. CODATA EC Nominations Procedure Document 2021  
5. Encouraging National Committees to Recruit Institutional Members  
- A Proposal (v03)

出席者(敬称略)：井上純哉、中西友子、村山泰啓、芦野俊宏、伊藤聡、岩田修一、  
大武美保子(記録)、五條堀孝、谷藤幹子、原田幸明

出席 10 名(定足数 7 名)

議事：

1) 資料 2 を用いて、議長の芦野先生が趣旨説明をした。出席者の人数を確認し、委員会の成立を確認した。

2) 資料 3 を用いて、各委員より自己紹介が行われた。所属の修正等を行った。

3) 小委員会役員の選任

芦野委員が CODATA 小委員会委員長として推薦され、了承された。

芦野委員長より、副委員長として伊藤委員、幹事として井上委員、大武委員が推薦されそのとおりに了承された。

4) CODATA 次期役員推薦について

以下の通り議論した。

- ・芦野先生を推薦、もう一期お願いしたいという意見が一致した
- ・次を探すために、国内のプロモーションをする方向となった

- ・そのためには、タスクグループの活動が国内にも見えることが重要
- この他、以下の発言があった。
- ・韓国で開催されるので、アジアの中で、中国、台湾、日本のどこかが落ちる心配がある
  - ・CODATA の役割、ドメインによりデータの意味が異なる
  - ・データ基盤を作る人が議論に加われるという観点で、役員候補に望ましい
  - ・インフラのプロジェクトを立ち上げる人が日本から出てくるとよい
  - ・分野や、国など、全体のバランスを考える必要がある
  - ・役員は、日本の役割を主張、対応できる必要がある
  - ・学術会議から年間 300 万円出ており、日本の存在感はある
  - ・女性のデータサイエンティストが必要
  - ・全体を把握している人が方向性を決めてもらえると、各分野が活動しやすい
  - ・人を誘うにも、CODATA とは何で、何を目指しているのかの説明が必要
  - ・アフリカの次世代との連携が必要
  - ・アフリカの方が、データビジネスがむしろ進んでいる
  - ・産業界から CODATA はどう見られているのか、不要と思われているのではないか
  - ・5 年 10 年先を見据えて、データの基盤の在り方を作りこむ必要がある
  - ・データでくらしの在り方が変わる時代、後方で新たな技術を作り続ける基盤を作る必要
  - ・ISC の中で CODATA がなくなると考える
  - ・アジアの中で、日本は、中国、台湾、韓国より不安定ではない優位性がある
  - ・データを使った戦略に沿って発言できる人が必要
  - ・データに基づいて規格を作ることが必要、世界を制する
  - ・データを抑えている出版社との関係をどうするか
  - ・データの会議で日本の人口が少ない、発言が届きにくい
  - ・協調領域と競争領域があり、協調領域に CODATA がある、切り分けが必要では

##### 5)国に対して紐づく機関メンバーの勧誘

関連して、CODATA の役割や位置づけについて議論した。

- ・国を代表するのではなく、産業界の人を巻き込む観点で作ろうとしている制度である
- ・意外と入ってもらえない
- ・CODATA は政策を提案したり、それを拾って知らせたりする役割と思われる
- ・分野の声を上げるしかない、そこが限界でもある
- ・過剰な期待を持ちすぎると限界に当たる
- ・しかし、CODATA は必要な国際機関である
- ・国際政治が反映されるところである、特に、中国と台湾の関係など
- ・営利企業が入れることにしていたら大変なことになったのではないか
- ・中国の発言権が大きくなるのではないか

- ・日本の発言は小さくなるのではないか
- ・中国国内でまとまっているとも言えない
- ・感染データの扱いはどうなるのか
- ・DNA データは人類共通の資産であり、登録しないと論文が出せないようにした
- ・COVID-19 のデータ、データベースが置き去りにされ、一つの機関に登録すればよくなった
- ・3つの機関が置き去りになった、壊れていく
- ・さらに登録するように伝えたとこ、ロゴを入れるなど、混乱
- ・患者情報まで入ろうとしていて、責任の所在が不明になっている
- ・問題を反映している
- ・WHO だけで対応できるのか不明
- ・問題は国際的にも大きくなっていく
- ・IT 業界的な問題が及んでいるのか
- ・ペースが速くなっている
- ・CODATA の存在意義が問われる
- ・緊急性とのバランスをどう取るか
- ・学術、近代科学にのっとして、人類の科学データがどうあるべきか、発言できる立場、健全な運営が可能ではないか
- ・そこに日本とアジアがいることが重要
- ・意見のバイアスがかからないように皆でバランスを取ることは重要
- ・商工会モデル、ショッピングモールモデル、街並みを整えるために拠出金が必要
- ・ISC になる前の ICSU、その前のインターナショナルアカデミー、ご近所づきあいの感覚
- ・参加することに意味がある
- ・WDS のオフィスは米国に移動した、CODATA との距離は今後近くなる
- ・IM とは？投票はできない。賛助会員の位置づけ。財政基盤を固めるため。影響は及ぼせるが直接の投票はできない。
- ・中国の CODATA に出ている人は、国内の出世に関わるので、利用している部分がある、その活動を活発化したい、国内事情
- ・各国の NC に活動してもらって、活発にしたいのもある
- ・企業だけではなく、国の機関
- ・予算に裏打ちされた発言権の拡大に警戒
- ・国際的なデータの扱いのルールが中国型にならないか、注目する必要がある
- ・日本としては距離を置いた方がよいのか、振り回されないように動いた方がよい
- ・学術会議が対応しているので、予算を IM から入れる仕組みがなく、日本では IM を誘えない
- ・兵站としての基盤であることが学術会議の中で理解されているので、予算が出ていると

思われる

- ・次の国連や G7 の議題は、ISC の有識者がまとめている、そこに日本が参加していないのはまずい
- ・位置づけは認められているので、どう展開するのが大事である
- ・日本人は学会発表しておしまいになってしまう、海外の人は、データはなくても自分はこう思うという話をする、印象に残る、議論が後々まで続く
- ・自分の考えをきちんと発表するのが重要

#### 7) 議事録の承認方法

議事録案をメールで回覧し、確認した上で、最終的な議事録の承認は議長に一任することが決まった。この取り決めをしないと、議事録を承認するために委員会の開催が必要になるためである。

#### 8) 次回開催予定

次回は GA の直前の 10 月頃に開催する予定となった。

#### 9) 総合討論

- ・ EC にはオブザーバでよいのか？ TG に参加する必要があるのか？
- ・セッションプロポーザルを出すことが求められている
- ・アジアパシフィックのセッション、京大のグループからもう一つ
- ・そういったことを増やす必要がある
- ・インフラのところでは国際的にというところであるが、それだけでは国内のプレゼンスができない
- ・国内的なプレゼンスが広がらないのが悩ましい
- ・データをコミュニティに対して整備することが研究者の学術業績として評価されるようになる、という議論がある
- ・日本のデータを世界に発信することが評価されることにつながる道筋を探そうとしている

以上